

第 66 回経営協議会議事録

- I 日 時 平成 25 年 11 月 26 日 (火) 15 : 00~17:00
- II 会 場 筑波大学東京キャンパス文京校舎「3 階 337 会議室」及びサテライト会場：筑波キャンパス本部棟 8 階「特別会議室」(茨城県つくば市天王台 1-1-1)
- III 出席者〔学外委員〕
乾正人、金澤一郎、岸輝雄、小林誠、佐藤禎一、三屋裕子、吉田和正
〔学内委員〕
永田恭介、阿江通良、三明康郎、清水一彦、BENTON Caroline Fern、吉川晃、東照雄、大田友一、五十嵐徹也、石隈利紀
〔オブザーバー〕
池田学長補佐室長
坪井大学執行役員 (人文社会系長)、猿渡大学執行役員 (ビジネスサイエンス系長)、金谷大学執行役員 (数理工学系長)、高木大学執行役員 (システム情報系長)、宮本大学執行役員 (人間系長)、中川大学執行役員 (体育系長)、玉川大学執行役員 (芸術系長)、松本大学執行役員 (図書館情報メディア系長)

IV 議 題

〔審 議〕

- (1) 就業規則等の一部改正及び整備等について ----- [審議 1 資料]
(2) 第 2 期中期計画における重要財産の譲渡について ----- [審議 2 資料]

〔報 告〕

- (1) 平成 24 年度に係る業務の実績に関する評価結果について ----- [報告 1 資料]
(2) 平成 24 年度財務経営レポートの公表について ----- [報告 2 資料]
(3) 平成 25 事業年度中間決算について ----- [報告 3 資料]
(4) 平成 25 年度「研究大学強化促進事業」の審査結果とその後の進捗状況について ----- [報告 4 資料]
(5) 国立大学法人筑波大学経営協議会学外委員からの提言・質問等に対する大学側の対応・回答について ----- [報告 5 資料]
(6) 第 112 回及び第 113 回教育研究評議会報告 ----- [報告 6 資料]

V 議 事

〔審 議〕

- 1 就業規則等の一部改正及び整備等について
東副学長・理事から、審議 1 資料に基づき、就業規則等の一部改正及び整備等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
- 2 第 2 期中期計画における重要財産の譲渡について
吉川副学長・理事から、審議 2 資料に基づき、第 2 期中期計画における重要財産の譲渡について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

〔報 告〕

- 1 平成 24 年度に係る業務の実績に関する評価結果について
大田副学長・理事から、報告 1 資料に基づき、平成 24 年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。
(各委員からの主な発言等は以下のとおり、○は委員の発言、△は本学側の回答)
- 圧倒的に「特筆すべき進捗」が少ない。「順調に進んでいる」が、非常に多い。今まで様々な事業を展開していることをお聞きしてきたが、それでも「順調に進んでいる」ということは、かな

り「特筆すべき進捗」は、難しいということか。

- △ 国立大学改革プランを先導的に取り組んでいるものが、多く取り上げられている。その他業務運営では、例えば、学内施設を面積当たりで一律にチャージを課し、施設運用の効率化を図るといった内容で、複数の大学が「特筆すべき進捗」として、取り上げられている。
- 例えば、国が幾つか優先度を高めたところに非常に積極的に取り組みながら、イノベーティブなアイデアを出し、結果を出していることが認められれば、「特筆すべき進捗」として、取り上げられるのか。
- △ 法人評価の構造が絶対評価ではなく、各大学において5年間の目標を立て、計画を実施したいということを出して、文部科学省がそれに対して意見を言って目標計画が事前に設定されている。それが実際に、どのように実行されたかという観点からの評価のため、最初から非常に高い目標、高い計画を立てても、それは計画どおり順調に発進したという形になる。このため一般のイメージする相対評価とは、少し違うところがある。ただ、ここに書いてある「特筆すべき」というところは、その枠を若干離れ、評価委員会なり政府が好ましいと思っている方向の努力を、ピックアップしているという色彩が強い。
- やはり筑波大学を良くしたい。良くしたいというのは、ただ単に良くなったと言うのではなく、周りの目からどのように見えているかが、これから非常に重要である。それもグローバルなスケールで、これを考えなければいけない。そのときに、こういう指標が出るというのは、非常にいい機会である。なぜかといえば、文科省が中心になっており、国から見ても大事なトピックになる。その中で、非常に目に見える化しやすい。そして、他校と比べたときに、圧倒的に筑波大学が、この「特筆すべき進捗」があったというのは、大変な効果があるのではないかと。いろいろと順番があるのかもしれないが、やはりそういう一つ一つの機会を最大限に生かせるものであるとしたら、いいベンチマークになる。
- △ そのとおりである。いいチャンスであり中期計画に書いていたもの以上のことができれば、それはやはり特筆したことになる。もうすぐ第3期中期計画が始まるが、第4期中期計画中期目標を、若手職員にバーチャルで意見交換をさせている。そのくらい先のことまで織り込んで第3期を作成すれば、それなりに革新性の高いものになるのではないかと。12年、15年後のやりたいを盛り込むのが、次の第3期であると考え準備はしている。

2 平成24年度財務経営レポートの公表について

吉川副学長・理事から、報告2資料に基づき、平成24年度財務経営レポートの公表について報告があった。

- 世界のレベルで、筑波大学のこれからの考えたときに、この様なビジネスインディケーターが、一番重要になってくる。教育機関であるため、何が大事かということから、ずれてはいけないが、やはりグローバルを目指したときに、それぞれのベンチマークは、今、旧帝大や私立と比較される。世界を目指す大学に成長していくときに、このインディケーターは、やはり必ず毎年毎年上げていく必要がある。
- △ 特に外部資金比率が上がることによって、研究に対しての比率も、研究の経費比率も上がっていく。そのところは、筑波大学は徐々にだが、右肩上がりにはなっている。そういう点を、特にこの指標の中では、努力のしがいのあるところではないかなと考えている。
- 一般管理費比率が出ているが、一般管理費というのは、費目でいうと、どのような経費が入るのか。管理業務に携わっている職員の人件費は、ここに入っているのか。
- △ 人件費は、入っていない。経費とすると、教育経費、研究経費、教育研究支援経費、その他となり、一般管理費ということで、整理されている。従って、人件費は別に人件費として整理されている。
- 人件費比率のところにも、人件費が出てくるが、人件費の中でも、教育研究に携わっている職員の人件費と、管理業務に携わっている職員の人件費では性格が違う。教育研究は、人件費が高くて業務経費の様なものであり、別に悪い指標ではない。一般管理に携わっている人件費が高くなれば多少問題であり、それも含めた比較が、将来できるといいのではないかと。
- △ 次回作成する時は、その様な人件費比率の比較をしてみたい。

3 平成25事業年度中間決算について

吉川副学長・理事から、報告3資料に基づき、平成25事業年度中間決算について報告があった。

- 4 平成 25 年度「研究大学強化促進事業」の審査結果とその後の進捗状況について
三明副学長・理事から、報告 4 資料に基づき、平成 25 年度「研究大学強化促進事業」の審査結果とその後の進捗状況について報告があった。また、つくば市内の研究機関等と本学の連携について、種々意見交換が行われた。
- 5 国立大学法人筑波大学経営協議会学外委員からの提言・質問等に対する大学側の対応・回答について
東副学長・理事から、報告 5 資料に基づき、国立大学法人筑波大学経営協議会学外委員からの提言・質問等に対する大学側の対応・回答について報告があった。
- 6 第 112 回及び第 113 回教育研究評議会報告
学長から、報告 6 資料に基づき、第 112 回及び第 113 回教育研究評議会について報告があった。

以 上